

## 令和6年度 上小地域医療・介護連携推進研究会 アンケート 結果

### 1. あなたの所属をご記載ください。

居宅介護事業所	33
医療（有床病院関係者）	14
地域包括ケアセンター	11
訪問看護事業所	6
その他	8

### 2. 研究会の開催内容についてお答えください

#### (1) 開催時期、時間等について

ア よかった	64
イ よくなかった	7

#### (2) 参集範囲について

ア 今回の参集範囲で良い。	66
イ 良くなかった	2

#### (3) 今回取り上げた議題で感じたことは何ですか。

- ・ 退院までの連携調整がスムーズに行くためにタイムリーな情報共有の必要性を感じた。
- ・ 当事者が良かったと思えることを忘れないで連携したい。
- ・ 課題と感ずることが行政の仕組みづくりにつながってほしい。
- ・ 医療と介護の連携には互いの視点のすり合わせが大切。
- ・ 連携についての上手くいかなかった事例も共有し課題意識を持てた。
- ・ 多職種で話をする機会があってよかった。
- ・ 高齢者の皆さんが安心して生活できる地域づくりを引続き目指したい。
- ・ 病院の中ではわからなかった連携が必要な場面があることを知れた。
- ・ 全ての関係者が一堂に会することは困難な場合もあるので、関係者と分科会等設定したい。
- ・ 医療・介護双方の立場の話が聞けて良かった。
- ・ 医療・介護双方の距離が縮まったように感じた。

他

#### (4) 次回取り上げてほしい議題はありますか。

ア 研究会の開催は必要がない	1
イ 医療と介護の連携を深めるワークショップ	42
ウ 在宅での看取りについての研修	37
エ 在宅支援における介護技術について	11
オ その他	5

### 3. 皆さんの経験で「医療・介護連携の好事例」がありましたら教えてください。

- ・ 退院時の連携において、在宅か施設かで揺れている利用者に医療、介護連携し選択しやすいように提示できた。
- ・ 退院支援の際に医師も交えて対応できた。
- ・ 別居家族の支援（家事負担軽減）により穏やかな看取りが実現できた。
- ・ 入院時からの情報共有により、入院中、退院時と情報連携でき、在宅支援のサービス調整がうまくいった。
- ・ 退院時連携により、在宅での状態変化にも対応できる。
- ・ 医療・介護双方で目指すべき方向の確認ができると良い支援に繋がる。
- ・ 医師とも顔の見える関係が大切であると思い、受信同行等により連携推進した。
- ・ 医師にも連携シートが浸透しているように感じている。
- ・ 通院困難者に対する訪問診療が実現した。

他